

自主防災組織(共助)



大規模な災害が起こったときは、ライフラインが切断されるだけでなく、道路等も寸断され、被災件数も多いことから公的機関の救助がすぐに来ないことが想定されます。

地域で自主防災組織を作り、自分たちで助け合い、地域を守りましょう。



1 平常時の活動

学習会の開催、広報紙の発行

地域で学習会を開き防災の知識を深めます。広報紙で防災意識を高めます。

地域の災害危険度の把握

防災カルテ、防災マップを作りましょう。

- 防災カルテは地域の状態を一覧表にして記録します。

住民

住民数、世帯数、年齢別人口、避難行動要支援者名簿など

住宅

建築年度別・構造別住宅数など
※古い木造をチェックしましょう。

施設

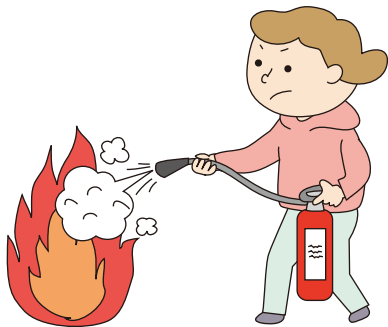
避難場所、病院・診療所、防災倉庫、消防関連施設など

危険箇所

ブロック塀、自動販売機、看板、冠水箇所、土砂崩れ箇所など

- 防災マップは、防災カルテの内容を地図に書き込みます。

※障害者の立場に立って危険度の確認もしましょう。



防災訓練

災害に備え、訓練をしましょう。

- 初期消火訓練
- 避難誘導訓練
- 救助、負傷者搬送訓練
- 応急救護訓練
- 情報伝達訓練
- 地域の避難所開設訓練
- 炊出し訓練 など

家庭の安全点検

年に1度の家庭の安全と備蓄の点検を呼びかけましょう。

防災資機材等の整備

災害時に必要な資機材を準備し、定期的に点検しておきましょう。

避難行動要支援者の支援計画作成

事前に避難行動要支援者が必要としている内容を確認し、「誰が、誰を助けるのか」支援を計画しておきましょう。

消防団等との連携

消防団等と話し合い、災害時の連携をあらかじめ確認しておきましょう。

2 災害時の活動

● 情報の収集、伝達

住民の安否確認を行い、救助が必要な人を確認しましょう。正確な情報を伝えることで住民を支援しましょう。

● 出火防止、初期消火

大災害時は、消防が来られるとは限りません。地域で初期消火を行い、延焼を防ぎましょう。

● 救出・救護・搬送

救助が必要な人を救助し、負傷者の応急手当を行い、病院へ搬送しましょう。



● 避難誘導、避難所開設、運営

災害時は住民の避難誘導を行い、地域の避難所開設、運営をしましょう。

● 炊出しと給水

地域で炊出しや、必要に応じて給水、救援物資の配分を行います。

※食中毒に注意しましょう。



● 二次災害の防止

ため池などを点検しましょう。

地域の被災者の避難生活や健康状態に注意し、支援します。

3 個別避難計画(個別避難支援計画)

要配慮者の内、災害時の避難に支援が必要な人に個別避難計画(個別避難支援計画)を作成してもらい、地域に支援を依頼してもらいましょう。

(支援が必要な人)

①～③の全てに当てはまる方

- ① 要介護度3～5、または障害者手帳1,2級、難病等の支給認定を受けている、医療機器を装着しているなど。
- ② 自宅がハザードマップで危険が想定される区域内にある。
- ③ 高齢の独居者や夫婦のみ世帯など本人と家族だけでは避難が難しい。

記入内容

- ①氏名・性別・年齢・住所・電話番号
- ②要援護者登録区分 ③要支援情報
- ④緊急連絡先 ⑤家族構成 ⑥居住状況
- ⑦日常生活における留意事項
- ⑧使用薬・必要な医療器具
- ⑨利用中の医療・福祉サービス
- ⑩一時避難場所・避難所 ⑪留意事項
- ⑫避難経路 ⑬支援協力者
- ⑭その他特記事項

※地域へ支援依頼するときは、教えたくない個人情報をお隠しします。



4 地区防災カルテの作成

地区防災カルテ・地区防災マップを作りましょう。

- 防災カルテで、地区の危険と防災力を確認し、防災マップによりわかりやすくします。
- 防災マップは、地区の地図に要支援者の位置、古い住宅、災害の被害が想定される区域、施設名や危険箇所を記入して、「見える化」をします。

地区防災カルテの例 ※記入例

地区名	○×地区				
海岸	あり	山・がけ	あり	河川	あり
南トラ震度	最大震度7	孤立の可能性	少ない	住宅密集地	あり

← 地区の特性

【住民】

住民数	300人		世帯数	100世帯		
小地区名	0~5歳	6~14歳	15~64歳	65歳~	計	要支援者数
中央	6	14	25	15	60	2
東	5	12	32	14	63	2
西	7	6	15	10	38	2
南	9	13	41	13	76	5
北	8	9	28	18	63	3
計	35	54	140	70	300	17

← 住民数・世帯数

← 年齢別人口

※余裕があれば性別も入れる

【住宅内訳】

構造	昭和56年5月以前着工	(内、耐震補修施行済)	昭和56年6月以降着工	津波浸水想定区域内	ため池氾濫避難困難区域内
木造	30	(5)	25	40	25
非木造	10	(0)	35	32	18
構造	土砂災害被害想定区域内	洪水浸水想定0.5m以上	家屋倒壊氾濫区域内	高潮浸水想定0.5m以上	要支援者住家
木造	4	40	12	38	8
非木造	8	31	6	30	2

← 地区の住宅状況

※危険な場所の住宅を確認します。

【地区内施設名】

避難場所	○×コミュニティーセンター、○×小学校(地区外)
病院・診療所	△□医院(●●-●●●●)
防災倉庫	コミュニティーセンター裏(土嚢袋、担架、発電機、簡易トイレ ほか)
消防関連施設	第××分団屯所1か所、消火栓11か所、消火栓ボックス10か所
その他	コンビニエンスストア1店舗、酒屋兼食料品店1店舗 ガソリンスタンド1店舗

← 地区の避難所

← 地区内の各施設

【地区内危険箇所】

ブロック塀	多数 箇所 内、未補強	9 箇所
自動販売機	6 箇所 内、未固定	3 箇所
看板	多数 箇所 内、未補強	2 箇所
冠水	酒屋前の道路、地区の西部	
土砂崩れ	東野山	
その他	災害ため池1か所(○△池) ××工場に大型屋外貯蔵燃料タンク	

← 地区の危険な場所

【過去の災害】

平成16年 23号台風	西の5軒が床上浸水、21軒が床下浸水、東野山で土砂崩れ
-------------	-----------------------------

← 地区の過去災害